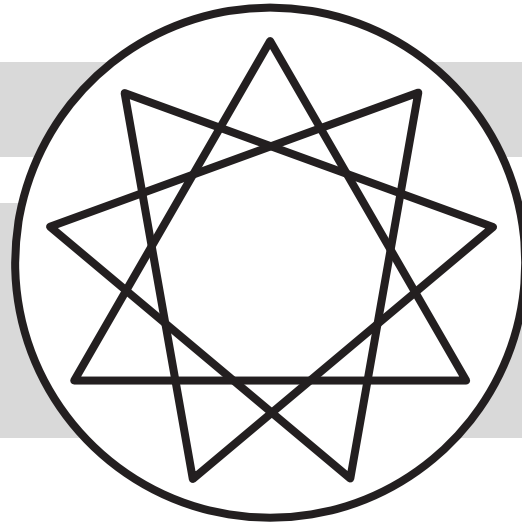


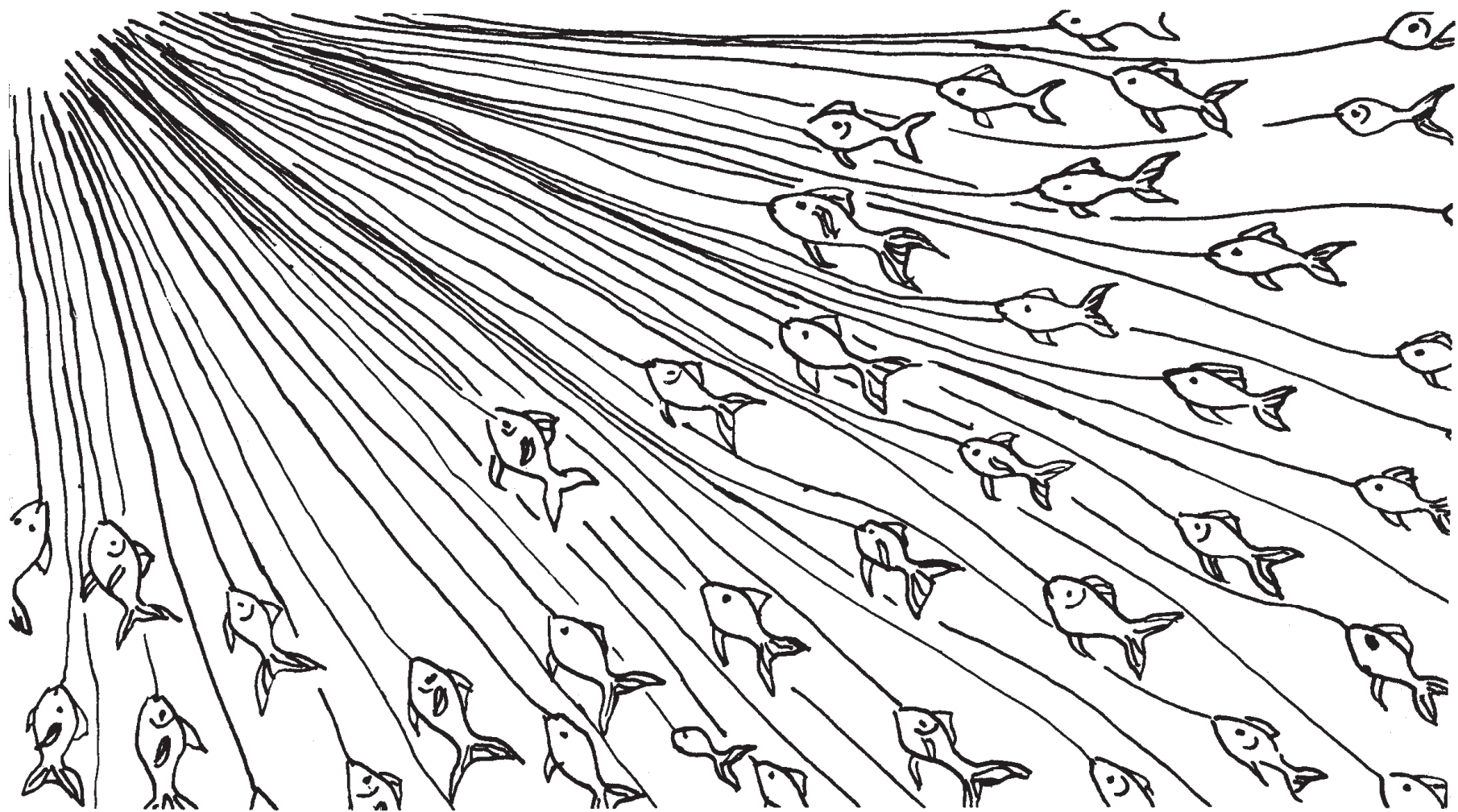
# バハオラ

## 神の栄光





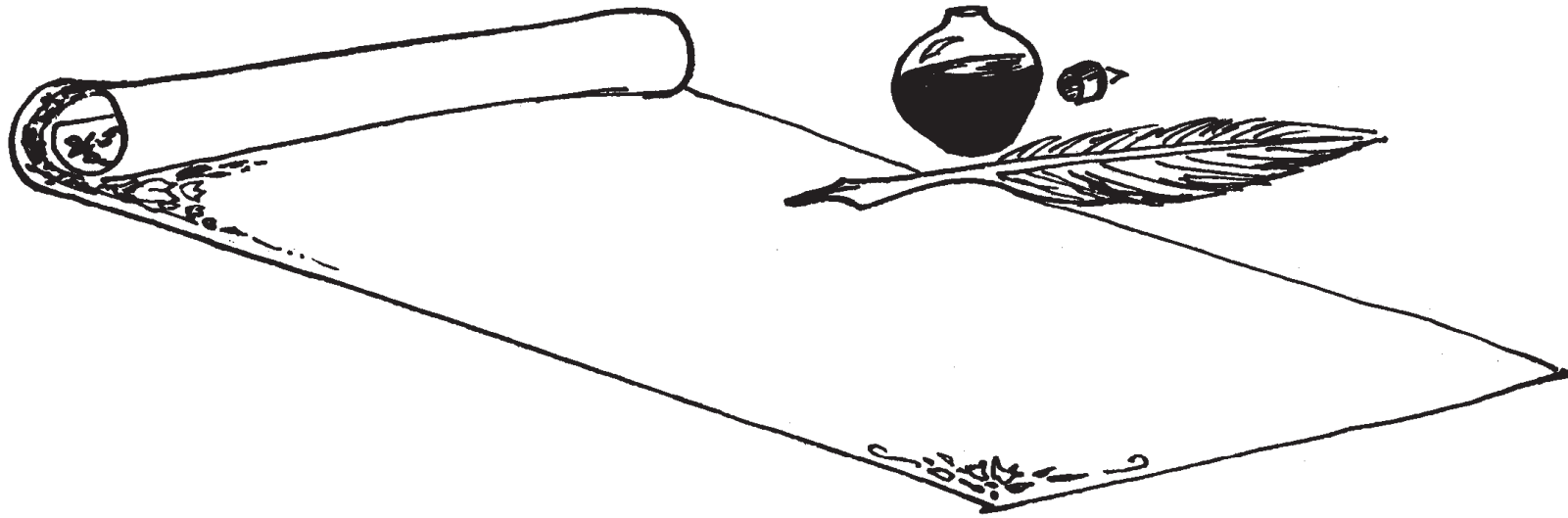
バハオラは1817年11月12日、イランの首都テヘランにお生まれになりました。幼少時より、偉大さの印を見せられました。家庭で幾らか教育を受けられましたが、神から授けられた天来の知識のおかげで、学校へ行く必要はありませんでした。



バハオラの父親は、ある夜、夢を見ました。バハオラが大海を泳いでいて、水に照らされた身体は光り輝き、長い黒髪は四方に広がって、無数の魚のそれぞれが一本の髪の毛にすがって、彼の後に続いていたというこの夢は、バハオラを待ち受けている偉大な運命を示す多くの兆しの一つでした。



後に、バハオラが青年だった頃、王の宮廷での高い地位につくよう提案されましたが、彼はそれを断り、貧しい人や病人、虐げられた人々の救済や、正義の大義のために働くことに時間を捧げることを望まれました。



27才の時、バハオラは、バブからの巻物を受け取られました。バブは、神の新しい使者で、すべての時代の約束された御方の到来のために人々を準備していました。バハオラはバブのメッセージを受け入れ、バブの最も熱心な支持者の一人と  
なられました。



バブの宣言の真実性を受け入れたくなかった当局は、バブを信じる者を迫害し始め、このようにしてバハオラの受難が始まりました。1852年、バハオラは逮捕され、テヘランで最も酷い牢獄の一つに鎖で繋がれたのです。



この牢獄で、神は、バハオラに、バブによって、そして過去のすべての預言者らによって約束されていた者はバハオラである、と告げられました。この暗黒の地下牢から真理の太陽が昇り、世界を照らし、人類の生活における新しい時代が生まれたのです。



4ヶ月間の投獄の後、政府はバハオラを故国から追放しました。極寒の冬の中、バハオラとご家族はテヘランからバグダッドへの長旅を強いられたのです。





バグダッドで、バハオラの英知の名声は全地域に広がりました。あらゆる背景をもつ人々が家に押し寄せ、彼の助言や援助を求めました。バハオラの影響力を恐れた政府は、バハオラを故国からさらに遠くへ追放することを決めました。



バグダッドを去る前に、バハオラは市の郊外の庭園で12日間を過ごされ、その間、バハオラにお別れを告げにくる訪問者の流れが続きました。この庭園で、バハオラは、自分がこの時代のための神の顕示者であることを宣言されたのです。これから何世紀にもわたり、4月のこの12日間は、世界を包み込む彼の使命についてのバハオラの宣言の記念日、レズワンの祝日として祝われます。



スルタン・アブドル・アジズ  
オスマン帝国



ニコライ・アレクサンドル二世  
ロシア帝国



フランツ・ヨーゼフ  
オーストリア帝国



ナポレオン三世  
フランス



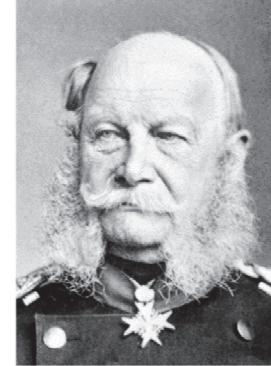
ナセルディン・シャー  
ペルシャ



ローマ教皇ピウス九世

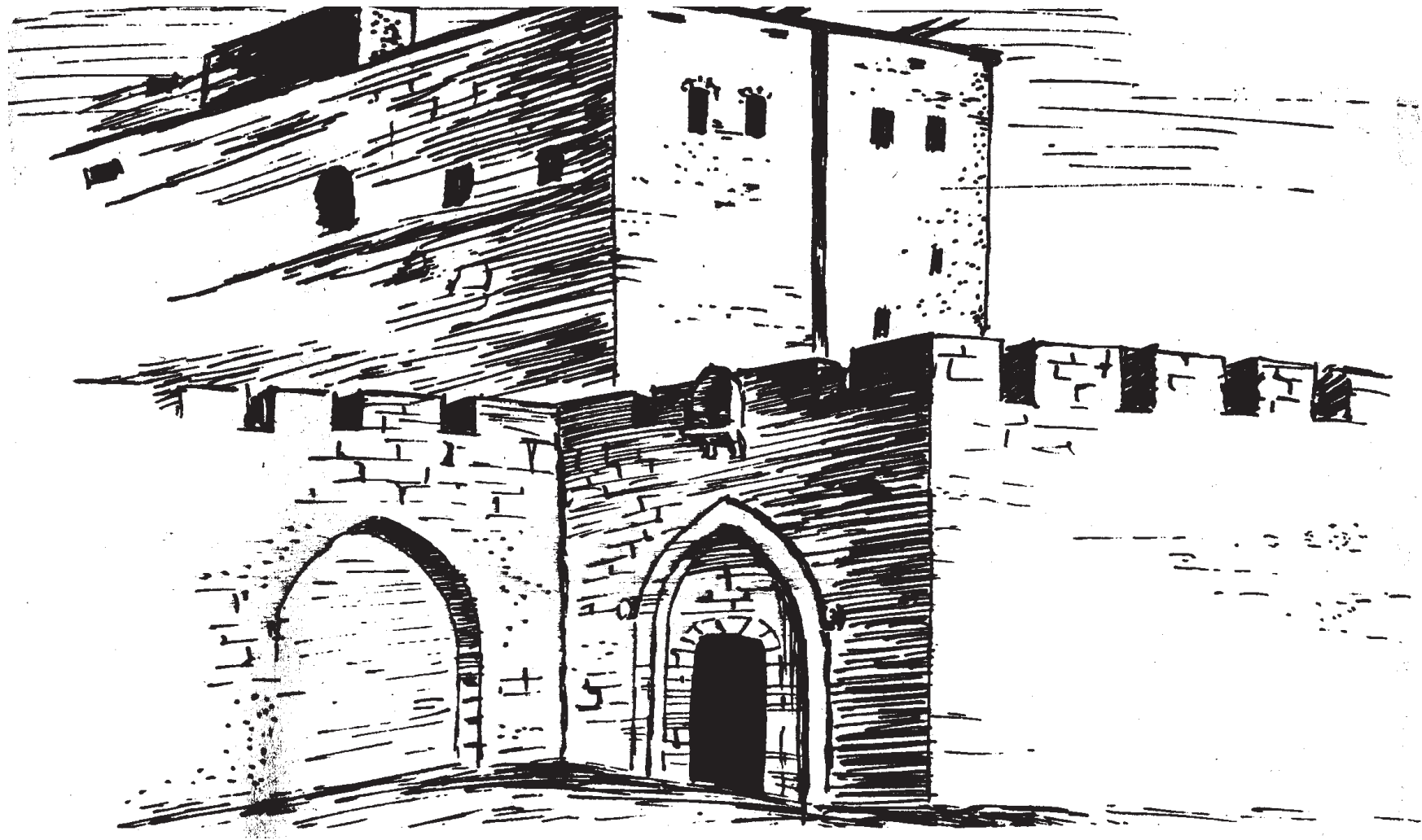


ヴィクトリア女王  
英国



ヴィルヘルム一世  
プロイセン王国

バハオラの、次の流刑地はコンスタンティノーブルで、次に、アドリアノーブルでした。これらは共に、現在のトルコの都市です。囚人であり流刑者であるバハオラは、アドリアノーブルから、世界の王や統治者らに手紙を送り、正義を支持し、自分たちの力を使って悲惨や戦争を終わらせるよう促されました。



アドリアノーブルでも前と同じように、バハオラの名声はその地域の住民の間に広まり、政府はさらに遠くの、アッカの牢獄都市へとバハオラを追放することにしました。その牢獄にはその国の極悪人や扇動者が収監されており、そこに入れば生きては出られないと言われる場所でした。



投獄の状況は極めて過酷なものでした。バハオラの信奉者らの何人かは、アッカまでの長距離を旅してきたにもかかわらず、バハオラとの面会を許されませんでした。彼らは、ただ、監房の窓から手を振られるバハオラのお姿を遠方から見るだけでした。



その地域のますます多くの人々がバハオラの力や威厳を認識するにつれ、次第に状況は改善されました。生涯の最後の数年間、バハオラは塙に囲まれた都市の外にあるバージの邸宅に住まわれました。アッカで、バハオラは、彼の最も聖なる書であるアグダスの書を含む、人類への導きの書をたくさん顕されたのです。



1892年5月、バハオラは昇天されました。現在、美しい庭園に囲まれている、バージのバハオラの墓所は、地上で最も神聖な場所です。毎年、世界中から何千もの人々が、敬意を表し、平穏な環境の中で祈り、瞑想するためにバハオラの墓所を訪れています。

Copyright © 2002, 2022 by the Ruhi Foundation, Colombia  
All rights reserved. Edition 2.1.1.PE July 2022

Ruhi Institute  
Email: [instituto@ruhi.org](mailto:instituto@ruhi.org)  
Website: [www.ruhi.org](http://www.ruhi.org)